

情報 ひがし労

JR東労働組合

JR East Labor union

第14号

2018年10月10日

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

第4次安倍内閣誕生！

9月20日に行われた自民党総裁選は6年ぶりに選挙戦となりで石破元幹事長を破って安倍首相が勝利を果たし、10月2日に内閣改造が行われ第4次安倍改造内閣が発足しました。今回の内閣改造で全19閣僚のうち留任は麻生氏ら6人で12人が初入閣、再入閣が1名となりました。安倍首相は「全員野球内閣」と銘打ち、記者会見で「明日の時代を切り開くための全員野球だ」「自民党がリーダーシップを取って、次の国会で改正案提出を目指すべきだ」と改めて憲法改正を表明、とりわけ自衛隊明記に強い決意を示しています。しかし、野党は「在庫一掃、閉店セール内閣」と各派閥の入閣待機組が入閣しただけと批判を強めています。安倍改造内閣の入閣した麻生氏は森友公文書改ざん問題やセクハラ問題で被害女性を攻撃する発言し、下村博文氏、松島みどり氏、稲田朋美氏は様々問題を起こした人物ですが、何事もなかったように党の要職に就けたことや、この他にも疑惑や問題を抱える人物を登用したことに疑義を抱かずにはいられません。安倍改造内閣の政権運営について安倍首相は「5年9カ月にわたる経済政策、外交政策など政権運営の骨格はしっかりと安定感を持って継続していきたいと考えています」と述べました。貧富の差を強め成果の出ない「アベノミクス」は継続、同盟国であるアメリカとうまく付き合い、憲法を改正し自衛隊の存在意義を明文化させるなど、私たち国民にとって何らうまみのない内閣の誕生です。内閣誕生後の支持率は低迷しています。このことから期待感にはありません。むしろ期待感ではなくあきらめ感の表れとなっています。しかし、この現実を生み出したのは私たち国民にも責任がないとは言えません、来年実施される予定の参議院選挙でしっかりと国民の声を反映できる国会議員を国政の場へ送り出していくことが必要となります。

今ある現実を目を向けて政治に興味がないのではなく、私たちの世代から次の世代へ戦争のない平和な社会を引継いでいくために何をするのが問われています。今次誕生した安倍改造内閣の行く末をしっかりと刮目し憲法改正へと突き進むことに反対の声を上げ、警鐘を乱打していきましょう！

国民不在の政治に異を唱えよう！